



①会場を埋め尽くす観客にサディスティック・ミカ・バンドも大興奮！

②ホーンセクション（管楽器）の演奏が光るエディ藩&オリエント・エクスプレス ③観客も総立ちでノリノリ！

音楽のパワー！！

～広がる輪。つながる心～

東北のウィーンと呼ばれるまでにまちを変えた音楽によるまちづくり。
 そのような中、昭和49年に7万人を超える人々が集まった伝説の
 ワンステップフェスティバルロックコンサートが…。
 音楽に情熱を注ぎ込んできた全ての人々の思いを受け継ぎ、音楽都市
 宣言をした郡山。
 そして今、新たなステージへ…

出演アーティスト

※出演順

74年 8月4日	▶神無月 ▶サンハウス
	▶陳信輝グループ ▶イエロー
	▶ウェスト・ロード・ブルース・バンド
	▶トランザム
74年 8月5日	▶クリス・クリストファーソン &リタ・クーリッジ
	▶沢田研二&井上堯之バンド
	▶ダウン・タウン・ブギウギ・バンド
	▶つのだひろ&スペース・バンド
74年 8月8日	▶あんぜんバンド
	▶エディ藩&オリエン・エクスプレス
	▶クリエイション ▶四人囃子
	▶南正人 ▶異邦人 ▶南無
74年 8月9日	▶外道 ▶シュガー・ベイブ
	▶センチメンタル・シティー・ロマンス
	▶はちみつばい
	▶ミッキー吉野グループ
74年 8月10日	▶ディブ平尾&ゴールデン・カップス
	▶めんたんぴん
	▶寺田十三夫と信天翁
	▶VSOP ▶ラブ
74年 8月10日	▶ブルース・ハウス・ブルース・バンド
	▶グレープジャム
	▶宿屋の飯盛り
	▶上田正樹&サウス・トゥ・サウス
74年 8月10日	▶かまやつひろし&オレンジ
	▶オリジナル・ディラン
	▶宮下フミオ (ファラウト・ファミリー・バンド?)
	▶サディスティック・ミカ・バンド
74年 8月10日	▶内田裕也&1815ロックンロール・バンド (クリエイション)
	▶キャロル
	▶ヨーコ・オノ&プラスチック・ オノ・スーパー・バンド
	▶ヨーコ・オノ&プラスチック・ オノ・スーパー・バンド

【参考】「別冊宝島 ロックファイル vol.6」
(1989年10月発行)



シャンパンシャワーで
はじける沢田研二さん



ド派手な演奏の外道

歴史に埋められた伝説

東北のウイーンと呼ばれる、音楽都市へと歩み続けてきた郡山。戦前から既に郡山には小学校にプラスチックバンドがあったり、一般の方が軽音楽のバンドを組んだり、さまざま音楽の素地がありました。戦後、特に昭和29年に行われた国鉄郡山工場食堂でのNHK交響楽団公演を皮切りに、市民主導の文化誘致運動が行政をも巻き込み、音楽によるまちづくりが大きくなるとなりました。

この動きが全国的に話題となり、東北のウイーンと呼ばれるようになった郡山。今日まで音楽とまちを愛する多くの人々の活動が築き上げてきたこの「音楽都市おこりやま」を未来へつなぐため、今年3月24日、郡山市は音楽都市を宣言しました。しかし、これまで歴史の中に埋も

若者たちの情熱が一つに

ワンステップフェスティバルは、「街に緑を！若者に広場を！そして大きな夢を！」をテーマに、7月31日から8月10日まで、開成山公園を中心に開催されました。記念式典、清掃活動、日本の祭り、子どもの祭り…。中でも、8月4日と5日、8日から10日に開成山陸上競技場を舞台とした、当時の日本では最大規模となる野外ロックコンサートには、5日間で7万人を超える人々が集まりました。

この企画・運営を担ったのは、20代や30代の地元の若者たち。その中心にいたのが佐藤三郎さんでした。

しかし、全国的にもコンサート自体の開催数が少ない中で進められたロックコンサート。ボランティア、ロックイベント、40組を超える出演者の無償協力、そして本人自らが「縁の下の力持ちだった。」と話す内田裕也さん。関係者全員が、フェスティバルへの夢を思い描いていなければ、実現は難しかったと三郎さんは言います。



かまやつひろしさん「ノッてますかー！」
観客の皆さん「イエー！」



開成山の上空に浮かんだ飛行船



我先にとステージへ向かって走る人々



パワフルな上田正樹さんのステージ

フェスタの始まり

フェスティバルが近づくにつれ、まちには、長髪、Tシャツにベルボトム姿の若者が増えてきました。花火の打ち上げとともに始まったフェスティバル。開成山陸上競技場では、竿燈祭りや、傘踊りなどの日本の祭りが行われ、外の広場では、動物の着ぐるみと遊ぶ親子連れの姿もありました。当時、屋根のなかった野外音楽堂でも演奏が行われ、音楽を楽しむ人々が大勢いました。

そのころ、メインイベントとなるロックコンサートのステージも次第にその姿を表し始めていました。今では、屋外コンサートステージの機材も小型化が進んでいます。当時は、今とは比較にならない大きさ。しかし、真夏の炎天下の中でのステージ設置の大変さも苦にならないほど、スタッフはこのイベントに興奮していたといいます。

夢の実現

そして、ついにきたコンサートの日、開成山には長蛇の列ができていました。オープンと同時に、ステージに向かつて走る人々。大好きなバンドがお目当てなのか、それとも初めて目の当たりにする音楽を最前列



で見ようとしているのか。コンサート会場には、数え切れないほどの人が押し寄せました。演奏が始まると、音楽に合わせステージ前で踊り出す都会から来たと思われる人々。それに対し、ほとんどの観客は、まだこの音楽に不慣れなのか、体育座りのまま表情も硬い。しかし、時間が経つにつれ会場の雰囲気も一変し、大きく盛り上がってきました。

夜になって登場したのが、インディアン姿の沢田研二さん。内田裕也さんとのコラボレーションでは、音楽に合わせて二人でステップを踏み、腰を振り回す。今見ても楽しめるそのパフォーマンスは、当時の人々にはかなり刺激的なものだったのではないでしょう。後のインタビューで沢田さんは、「テレビの歌番組に比べると、異質な感じがした。」とコメントしています。

翌日以降のコンサートでは、つのだひろさん、上田正樹さん、かまやつひろしさん…とそうそうたる顔ぶれが登場。日を追うごとに、会場全体の一体感が増していきました。

そしてコンサート最終日の8月10日、トリを飾ったのが、オノヨーコさん。彼女が、このコンサートのために、直前までニューヨークの自室



「一歩で見る夢は夢で終わるけれど、
みんなで見ると見る夢は必ず実現する」



この日のために
新曲「夢を持とう」を
作ってくれた
オノヨーコさん



タンバリンを振り
かざして熱唱する
内田裕也さん



肩を組み、足を振り上げ、音楽を楽しむ観客



フェスティバルの**こぼれ**話

8月7日にも開催するはずだったコンサートは、どしゃぶりの雨のため中止に。しかし、7日のチケットの半券で、8日のコンサートに入場できるというな粹なはからいがあった。

コンサート会場は開成山野球場を予定していたが、オノヨーコさんに出演してもらうための日程調整の関係で、開成山陸上競技場へと変更になった。

最終日の翌日となる8月11日には、出演者やスタッフみんなで、会場のごみ拾いを行った。

郡山駅東側の阿武隈川河川敷にキャンプ場が設置され、チロリン村役場という建物もあった。



キャンプ場で新しい友人との輪が広がったとか…。

11日間に渡って開催されたワンステップフェスティバルが残したものは何だったのか。それは、当時の人々それぞれの記憶の中に生きています。しかし、当時の日本では前代未聞のロックコンサートが行われたのはまぎれもない事実。このコンサートが以降の日本のロックシーンに大きな影響を及ぼしたのもまた事実

音楽が映す未来

「一人で見ると夢は夢で終わるけれど、みんなで見ると見る夢は必ず実現する」

実。そして、ここ郡山の地で開催されたということも…。
佐藤三郎さんたち若者が、そのほとばしる情熱で一步を踏み出し、多くの仲間と心をつないで実現した夢。そこには、これからの私たちの歩みに通じるメッセージがあります。このまちが好きだから、このまちをもっと好きになりたいから…。
そんな思いを一つに音楽の力の下に集まり、オノヨーコさんの詞のように、みんなと同じ夢を見る。その姿こそが、音楽都市の描く姿なのではないでしょうか。
そして今、新たなステージへの一歩が…。

伝えたいメッセージ ～ワンステップ～



「フェスティバルを企画するきっかけとなったものは？」

1970年にハワイで見たアメリカ映画のウッドストックです。ニューヨーク郊外の農場で開催された伝説の野外ロックフェスティバル。愛と平和をテーマに、音楽をとおして人々が一体となる。50万人もの人々を集めた音楽の凄さに感動しました。いつか日本にもウッドストックと同じ波が訪れる…。スクリーンに映し出された姿を、郡山でも実現したいと思ったのです。

「フェスティバルをとおして伝えようとしたことは？」

いつの時代も「今の若者は…」と言われます。昔も今もこれからも、きっと同じだと思います。そこで私たちは、自分で考えて自分で動き出すこと、「ワンステップ」踏み出すことの大切さを伝えたいのです。これからの時代も、問題があれば強制されてやるのではなく、周りを見て何かを感じ、一人ひとりが気付いて、自分で動き出さなければならぬと思います。そういう思いがあれば、世の中やまちは、良い方向に変わっていくと思います。



佐藤 三郎さん
(ワンステップフェスティバル主宰者代表)

「仲間の協力があったからこそ？」

仲間の存在は、とても大きかったと思います。当時、私がいなくなったとしても、フェスティバルは実現できたと思います。みんなが同じ夢に向かって、それぞれが自分で考え動き出していましたから。

「三郎さんにとってのワンステップフェスティバルとは？」

一番思い出深いものですが、人生の通過点の一つでした。私は、常に新しいことに挑戦していきたいと思っています。私の職業は農業ですが、8年前、62歳で歌手活動を始め、「おにぎり」の歌などを歌い目標としていた1千回のライブも達成しました。また、新たな目標を掲げて、一歩を踏み出したいと思っています。



ワンステップのパワーを感じてこれから

「ワンステップフェスティバルから感じたことは？」

2年前のJC全国大会で、初めて目にしたワンステップフェスティバルの映像を見て、人を集め、人の輪を広げ、目標に向かうみんなの心を一つにつなぐ音楽のパワーの凄さを改めて実感しました。

私たちの根底にあるのは、このまちを良くしたい、笑顔あふれるまちにしたいという思いです。人づくりやまちづくりには、やはり音楽の力は欠かせないと思いました。

「音楽祭を開催するそうですが？」

9月にオーブライブ形式のイベント「スマイルサウンドフェスティバル」を開催します。私たちJCは音楽に関して素人ですが、私たちがからこそできる音楽祭を考えました。それは、シンプルに音を楽しんでもらう、ジャンルを問わない音楽祭。音楽好きの方はもちろん、誰でも楽しめるものになりたいと思います。

「音楽都市の姿って？」

私たちの考える素敵なまちは、人の笑顔があふれて、豊かな心を持つ人がたくさんいるまちこそが、素敵なまちだと思っています。その笑



山口 松之進さん
(社団法人郡山青年会議所理事長)

顔の源は、スポーツでも読書でも音楽でもなんでも良いのです。

音楽都市宣言は、音楽のための宣言でもなく、音楽がまちにあふれていくということだけを意味しているものではないと思います。音楽をとおして、人の輪が広がり、その心がつながり、笑顔あふれる人がたくさんいるまちにしたいという思いを込めた宣言だと考えています。

「皆さんへメッセージは？」

9月に開催するスマイルサウンドフェスティバルは、技術うんぬんではありません。とにかく、シンプルに音を楽しみに来てほしいと思います。そこで感じる音楽のパワーが、きっと、皆さんに素敵な笑顔を届けられるはずです。





9 SEP 20 SAT 土
21 SUN 日
START 12:00
TICKET FREE

入場無料

吹奏楽、合唱、フォーク、ロックなど、ジャンルを超えた音をお楽しみください

会場 開成山公園野外音楽堂
開成山公園自由広場

問 社団法人郡山青年会議所
☎932-2289

出演予定 ※50音順

▶ Apollo Choco Theater	▶ 野ばらコーラス
▶ IN THE WIND	▶ Buzz Style Factory!!
▶ 海王丸	▶ 2913
▶ 開成小学校	▶ BLUE III
▶ COLOR DROP	▶ 宮田
▶ GOOD ROCKIN DADDY	▶ MEGANES
▶ 小原田幼稚園	▶ juni.
▶ 榊枝悠子	▶ Libera-Rhysms
▶ スウィングマーマレーズ ジャズオーケストラ	▶ RODS
▶ Smoking Ape	▶ ROBO
▶ CEDIN' DEDEN	▶ ワンステップスーパーバンド (佐藤三郎、ROXVOX、 丸尾めぐみ)
▶ 前期高齢者ブルースバンド	▶ ONE STEP BUS

and more ...